

気候変動にも対応する湖沼水質管理の推進

- 気候変動の影響を正確に把握し、適応策の検討・実施につなげる
- 良好な水質と豊かな生態系を両立する琵琶湖を実現する
- こうした取組や国立環境研究所琵琶湖分室との連携を通じて湖沼管理をリードする

【提案・要望先】国土交通省、環境省

1. 提案・要望内容

(1)気候変動の影響把握に向けた水質調査等への協力・支援

- 関西の水資源を支える豊かで安全な琵琶湖の保全再生と、琵琶湖・淀川流域での気候変動適応策の検討・実施に必要な水質調査等への継続的な協力、支援

(2)水質環境基準のあり方の検討に係る連携強化

- 底層溶存酸素量(底層DO)環境基準や水質環境基準のあり方の検討に係る連携強化

(3)新たな湖沼水質管理手法の検討への支援等

- 良好な水質と豊かな生態系を両立する新たな水質管理手法の検討への継続的な支援
- 国立環境研究所琵琶湖分室による調査研究のさらなる実施と本県との継続的な連携

2. 提案・要望の理由

(1)気候変動の影響把握に向けた水質調査等への協力・支援

- 本県と近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、水資源機構琵琶湖開発総合管理所の3隻の船が連携して水質調査を実施。豊かで安全な琵琶湖の保全再生や、琵琶湖・淀川流域での気候変動の影響を迅速に把握するには、水質調査等を継続して行うことが重要。

(2)水質環境基準のあり方の検討に係る連携強化

- 国が設置した「琵琶湖における底層溶存酸素量類型指定等検討会」に本県も参画しているが、地域の課題やニーズをより反映させていくため、今後、会議の開催頻度を増やすなど連携や議論を更に深めていくことが重要。
- 中央環境審議会の意見具申を受け、国において地域のニーズに即した生活環境の保全に関する環境基準のあり方を検討。地域のニーズに即した環境基準にするには、公用水域の常時監視等を行う地方自治体と積極的に意見交換を行うことが重要。

(3)新たな湖沼水質管理手法の検討への支援等

- 水環境の保全と生物多様性の保全を同時に推進するには、生態系に配慮した新たな水質管理手法を検討し、既存の水質環境基準と併せて運用することが重要。
- 新たな水質管理手法の検討や気候変動の影響の把握と評価を進めるには、最新の知見と技術を有する国立環境研究所琵琶湖分室との連携が必要。

(本県の取組状況と課題)

(1)気候変動の影響把握に向けた水質調査等への協力・支援

- 琵琶湖は広大なため調査地点数は計 51 点で実施し、得られた観測データを解析。
- 琵琶湖では年々水温が上昇するなど気候変動の影響が確実に現れている。このような変化を継続的に把握し、適応策の検討・実施につなげる必要がある。

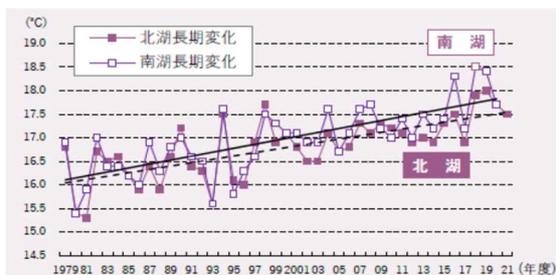


図1 琵琶湖の水温の変化

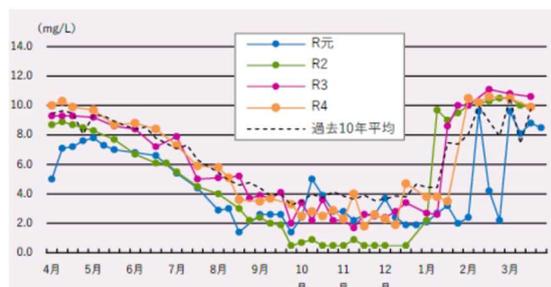


図2 今津沖中央における底層 D0 の変化

(2)水質環境基準のあり方の検討に係る連携強化

- 令和4年度に底層D0環境基準に係る環境基準点を設定。令和5年度から調査を開始。この調査結果や本県が独自に行っている底層D0の調査結果も国に提供し、達成率等の検討に協力。
- 琵琶湖では水質は改善する一方で、生態系の課題が顕在化。この課題に対応するには、既存の水質環境基準に加え、生態系に配慮した新たな水質管理手法が必要と考え、関連する調査研究を実施。



図3 琵琶湖の水質(りん)

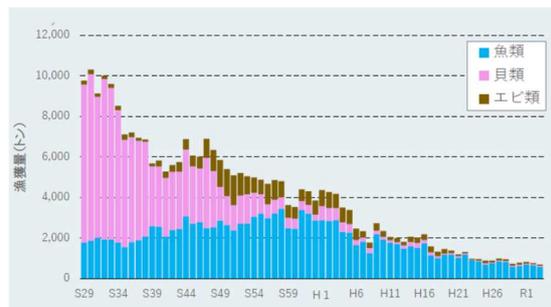
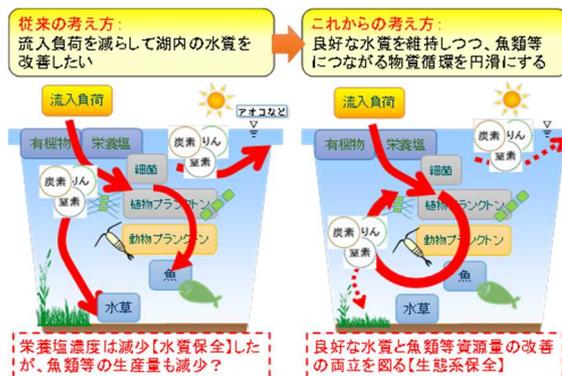


図4 琵琶湖漁業漁獲量

(3)新たな湖沼水質管理手法の検討への支援等

- 本県の生態系に配慮した新たな水質管理手法に関する調査研究の成果を踏まえ、令和4年度から琵琶湖保全再生等推進費事業で国とともに新たな水質管理手法に関する検討を開始。国立環境研究所琵琶湖分室も参画。



担当：琵琶湖環境部 琵琶湖保全再生課 水質・生態系
TEL：077-528-3463